

名古屋港の近代的灯台・灯標

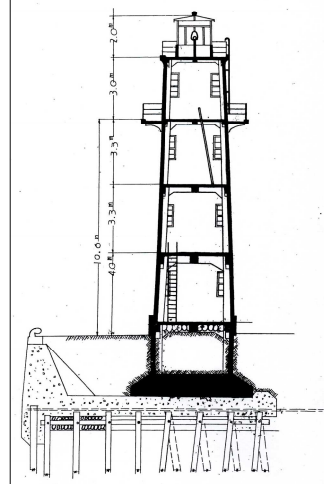
～国際貿易港を目指して～

		棧橋灯標	中央ふ頭灯台	10号地灯標
1908	明治41	点灯		
1939	昭和14		完成	
1940	昭和15	1/20廃止	点灯	2基完成
1944～45	昭和19～20			被弾後灯灯せず
1962	昭和37		5/12消灯廃止	
1980	昭和55		灯台撤去、後に灯籠発光部展示	
1987	昭和62			1基修復1基撤去



1956(昭和31)年時の中央ふ頭灯台
(名古屋港管理組合蔵)

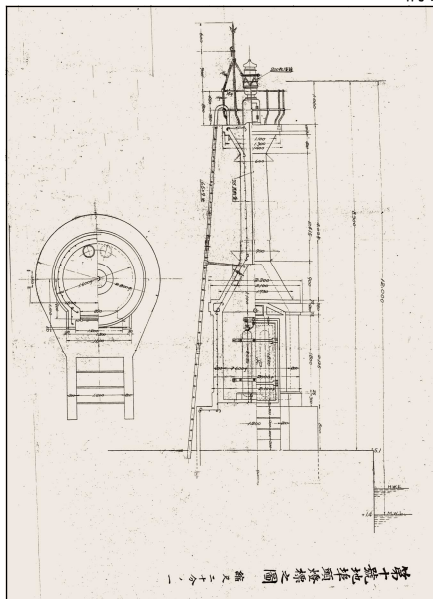
中央埠頭燈臺之圖



出典：『名古屋築港史』



10号地灯標



10号地灯標の図

(名古屋港管理組合蔵)

名古屋港は1907(明治40)年11月に開港場に指定された。外国船が安全に入港できるには、棧橋、灯台・灯標、水深などの港湾整備が必要である。棧橋の先端に鉄骨造りの頭部灯標が1908年に点灯された。名古屋港は内外の貨物取扱の増加は顕著で船舶の出入の急増で港湾整備は急がれていた。航路標識の中で灯台は、強固な塔脚の上に強力な灯器が求められた。名古屋港第四期工事(昭和2～同15年)では、航路標識の灯台・灯標など増設することになった。灯標は岩礁、浅瀬などに設置され危険を知らせる海中灯台である。

中央ふ頭には、1939年に近代的な鉄筋コンクリート造りの強固な中央ふ頭灯台が造られた。構造は円筒形白色、高さ15.6m、光達距離14哩で翌年1月初点灯した。その後港湾の信号所整備により1902年消灯した。灯台の灯籠発光部はガーデンふ頭展望広場に1983年展示された。

10号地ふ頭は貨客船、内国貿易雑貨船、木材搭載船、石炭船の繋船岸壁となり、ふ頭の中央凹所は物揚護岸に施工された。10号地灯標2基はふ頭の各先端に1940年完成した。立派な鉄筋コンクリート造りの灯標は高さ2.7m、下部の直径2.8m、光源にアセチレンガスを使用と図面に記載。名港管理組合の話では設計当初からの計画であった。太平洋戦争の空襲で被弾後、灯が入らなくなった。1987(昭和62)年に10号地ふ頭は整備され、灯標1基は撤去、1基は移設修復された。この灯標は名古屋市認定地域構造物となり戦争の歴史を伝える灯台となっている。



灯籠発光部